

第3回播磨町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）検討委員会

日	時	令和7年12月15日(月) 14時00分～15時15分
場	所	播磨町役場第2庁舎 会議室2
出席者		<p>【委員】奥 勇一郎、松下 嘉城、宮山 亜紀、竹内 正和、宜保 基樹、三根 佳奈子、北尾 政憲、飯塚 一哉、宮尾 尚子、井川 あゆみ</p> <p>【事務局】住民協働部 堀江部長、産業環境課 野中課長、佐伯課長補佐</p> <p>【国際航業】福田、小西</p>
配布資料		<p>(事前配布)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・資料1_前回までの振り返り ・資料2_アンケート調査結果(クロス集計) ・資料3_計画素案(案) ・資料4_資料編
議事内容		
1 開会		
2 議事		<p>(1) 前回までの振り返り(資料1、資料2、資料3「第1章～第3章」)</p> <p>資料1、資料2、資料3に基づき事務局が説明</p> <p>(2) 今回の議論(資料3「第4章・第5章」、資料4)</p> <p>資料3、資料4に基づき事務局が説明</p>
委員		<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルと太陽熱の設備は、家庭に併設できるか。
事務局		<ul style="list-style-type: none"> ・併設しているところはない。両方利用したい場合は、最近では太陽光発電と太陽熱利用の両方ができるハイブリッド式の太陽熱設備が出てきているため、そちらをご検討いただきたい。
委員		<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネルを新たに設置した場合、その費用を浮いたお金でペイできるかどうかという計算はまだこれからということか。
事務局		<ul style="list-style-type: none"> ・そういうことになる。
委員		<ul style="list-style-type: none"> ・加古川市に住む友人が、来年播磨町に転居予定である。建築中の自宅にはソーラーパネルも設置するとのこと。播磨町を選んだ理由としては「財政が良い、不動産の資産価値が下がらない、子育て支援があり、自然がある」といった点が魅力的とのことであった。播磨町は人気があるという印象だが、町内の活動内容などを対外的に情報発信しているか。ホームページだとなかなか見てもらえないが、20～30代の若い世代向けに LINE や Instagram などのSNS経由での発信は検討されていないか。
事務局		<ul style="list-style-type: none"> ・すでに住んでいる方に対しては「広報はりま」やホームページで周知している。他にも YouTube や「BAN-BAN テレビ」などでも、町の新制度などを広報している。しかし、町外からの転入者の場合、そういった情報は見に行かないとキャッチできないというのが弱点。そのため、町民以外の方でも情報を見られる対策が必要である。

第3回播磨町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）検討委員会

委員	<p>そこで播磨町の魅力や環境施策についても同時に伝えていけたらよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気密性の高い住宅にすることもソーラーパネルを設置することも、既設住宅より新規着工住宅の方が効果は高くハードルも低いと思い、質問させていただいた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーは天候に左右される点が課題の一つである。太陽光発電は特にそうだが、播磨町の日照条件は発電量不足になる心配はないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・播磨町は全国平均よりも日照条件がよいため、その心配はないと思われるが、おっしゃるとおり、天候状態で発電量は変わる。それを補うために蓄電池の導入という方法があるが蓄電池はまだ割高ということもあり、町の補助金を活用しながら進めるのがよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭用蓄電池に比べ、事業所用の蓄電池設置にはかなりの費用がかかる。町のご組として大々的に書かれているが大丈夫なのか。予算も心配。 ・太陽光発電システムの継続・拡充との記載もあるが、いつ頃から実施する計画なのか。2030年までの区切りで結果を出さなくてはならないということだが、それまでに町の補助金を設立する予定はあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭向けの補助金は今までどおり町で実施していくが、事業系の補助金についてはあくまで県の事業、太陽光発電・蓄電池の共同購入をご検討いただきたい。共同購入は、「1社だけの場合は100万円での購入になるが、5社で共同購入する場合は90万円で購入できる」といったもの。仲間を集めることで購入単価を下げることができる。これは県主導で事業者向けに行っている事業だが、播磨町も参画する方向で進めている。直接的な補助ではないが、スケールメリットを活かした購入ができるということで、現在ご案内している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3-4ページ)再生可能エネルギー導入目標について。太陽光発電の設置も土地があつての話。それが無理であればカーボンニュートラル電源でCO₂を削減するといった考え方もあると思うが、それらを決めるにあたっては事業者ごとに条件が異なるため、導入は各事業者の自主設定になるという認識で合っているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・おっしゃるとおりである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料4-35ページ)海の保全や町内の緑化等を進めていくということだが、前回、森林によるCO₂吸収では成果が出ないという話だった。播磨町の新島と東新島とでは緑化率1%以上、その他の工業地帯も5%程度ということで、工業地帯の緑化は難しい。先般、議会の傍聴をさせてもらった。そこで、ある議員が緑道整備の質問をしたところ、町長が「本荘地区の緑化率を高める」旨の発言をしていたが、そういった計画があるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本荘地区にこういったものを整備するというような具体的な話はまだない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・町長は緑道整備とは違う意味で発言したのかもしれないが、播磨町には緑道整備しているところはないのではないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・緑道整備はもともと緑道があるところを整備するのが基本。一から整備するのは用地の問題等もあり、かなり難しい。本荘地区も古宮地区において公園整備を検討す

第3回播磨町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）検討委員会

委員	<p>る必要があると考えているが場所は未定である。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「緑化を進める」と書かれているが緑化する地区はもう決めているのか。それとも、これからの検討課題になるのか。 ・「海の保全や町内の緑化等」については、播磨町は瀬戸内海に面しており海の資源があるため、アマモなどのブルーカーボンに適したところがないかの確認は必要だが、漁業者の協力も仰ぎながら、またアマモの生育に適した環境が播磨町内にあるか調査させていただき、海の緑化の推進ということの一つの考えとして持っておかなければならない。森林資源が少ないため、海の方での緑化ができないかという意味で計画に記載している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ため池の保全について。ずっと前から、ため池の浄化などは問題になっていた。今もきちんとため池の保全はなされているのか。たとえば、特定外来生物のナガエツルノゲイトウの対策もかなり喫緊の課題だが、その辺りも含めて緑化という目線からしたら対策はできているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ナガエツルノゲイトウに関しては町内の喜瀬川の方で繁茂している状況。ため池に入らないようにする対策は取水ゲートの方で行っており、現時点での流入は確認されていないが、年々生息域が拡大しているため、なかなか難しいところではある。喜瀬川自体の管理は県と協力して行わなければならないため、県の外来生物対策に関する部署、環境の部署、土木の部署と関連しての対策を継続していくことになる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にナガエツルノゲイトウの対策を明石市・神戸市・播磨町で行っているが、今は播磨町では喜瀬川にしか入っていない状態である。喜瀬川の上流にある稲美町から町内全域に入っている状態。基本的に、対策は上流から進めていくのが原則のため、上流から進めている段階だがそれが今年は止まっていた。しかし、また再開されると聞いており、1月ぐらいから現場に入ることになっている。上流から順番に対策を行っており、播磨町まではまだ届いていないところではあるが、これ以上、播磨町に広げないために加古川からの流れを止めるオレンジ色のオイルフェンスを設置している。播磨町にはオニバスをはじめとするいろいろな水草が生えており、全国的にも大事な環境、誇りに思える資源である。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「ナガエバスターズ」という名前でナガエツルノゲイトウの駆除作業も行っている。誰でもご参加いただけるため、ぜひ入っていただきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組施策のほとんどにホームページなどでの広報や情報収集が挙げられているが、先ほども言われていたように、こちらから見にいかなければ情報が収集できない点が結構ネックになっているのではないかと。一方的に情報を出すだけでなく、直接コンタクトを取れるような SNS の運用など、そういった施策はできないのか。私自身、播磨町の LINE 公式アカウントを利用させていただいているが、毎日の給食の献立などが送られてきて、すごく小さなことだが非常に便利である。しかし、他の保護者は知らない人が多いと、アピールが必要。たとえば、今の学校情報はみんな「スクリレ(学校と保護者の連絡アプリ)」で統一されており、保護者はほぼ毎日

第3回播磨町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）検討委員会

事務局	<p>それを見るため、そこでホームページの情報に誘導したり、町の公式 LINE をアピールしたりするような情報発信ができてよいか。町民が情報収集するのを待つだけでは今までと変わらないため、もう少しその辺りを変更できればよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「広報はりま」の方にも播磨町の公式 LINE アカウントの情報を継続的に掲載しているが、ご指摘いただいたように「載せているから見てね」ではなかなか通じないことを痛感している。播磨町の中でも「タウンプロモーション委員会」というものを立ち上げて、いかにその住民の方に情報をお伝えするか、どうしたら伝わるかというところを試行錯誤しながら、いろいろな媒体を使用することも含めて継続的に考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「広報はりま」のような紙媒体は若い世代の方が目を通す機会が少なくなってきており、今は何でもアプリ等で管理したり情報入手したりしている。何か知りたい情報があれば紙媒体からホームページに飛ぶことはあるが、そうでない場合のことも考えてご検討いただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・町としての情報発信の工夫、努力はもちろん必要だが、今回あえてここに「住民の取組」として記載しているのは「情報を自ら収集していきましょう」という意味合いも含めている。待っているだけではなく、住民の皆さんにも情報を収集する気持ちを持っていただきたいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者向けの補助金を申請するにあたっては、たとえば条件的に省エネの最適化診断を受けなければならないのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・今のところ、そういった条件の事業者向けの補助金はない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最適化診断を受けなくても補助金申請をすれば対象となるというか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・そのとおりである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者においては、太陽光発電や省エネ設備が経費の削減につながるといった目先のところが一番大事になってくる。それを理解・認知するためにもそういった診断を先に受けてもらった方がよい。それを促すために、費用を補助するところから始めると間口が広がるのではないかと。最適化診断には費用はあまりかからないとは思いますが、それでも補助があるとないのでは動きに変化が出るのではないかと。そういったことも、広報で案内をされる際に補助の件をお知らせいただければ、診断を利用しやすいのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・加古川市でそのような取組をしているのは承知している。事業者がまず取り組む前に自分たちの実態を把握しなければ次に取るべき行動に繋がらないため、そうした切り口でも考えていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・案内を出しても「実際にやってみよう」となる人は少ないため、続けることが大事。最初に一つの事業所の良いきっかけになれば、それがだんだん口コミで広がっていく。大変だろうとは思いますが必要なことではないかと。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・目標年度が30年・40年・50年とあるが、長いスパンで物事を見ていく必要がある。今、小中学生の子どもたちも、その年代には家庭を持って自分たちの子どももいる状況かと思う。しかし、アンケートのクロス集計結果では若い世代の回答者が9名し

第3回播磨町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）検討委員会

	<p>かないという状況。それ自体が、そもそも意見を取りにくいタイミングがないということを表している。アンケート自体を知っているかどうか、その上で回答するというハードルもあるということを考えると、やはり広報を見に行かないと取れない状況ではなく、ある程度こちらから働きかける必要があるのではないかと。たとえば、小中学校の社会見学で ZEB・ZEH の現場を見に行く、具体的にはモデルハウスなど。それから、校内での環境学習という枠組みで EV を充電・放電している現場を実際に体験してもらおう等。小中学校の教育現場が大変で時間がないのは承知しているが、町の意気込みとしてぜひここに入れていただきたい。意識を変えて自ら情報を取りに行くことも大事だが、ある程度こちらから踏み込んで、情報をキャッチしてもらえるような環境を作ることも非常に大事ではないか。学校のホームページの情報（今日の給食や今日の授業など）は子どもたちだけでなく、親世代やそれ以上の世代も見ている。そうすると「播磨町の太陽光発電にはこういう補助がある」といったことが子どもたちから親世代へと情報共有することができ、親世代の行動につながる機会が増える。環境リーダーとなる時代の人材育成に努めるという目標を抱えるのであれば、教育・学校というチャンネルを活用し、その具体的な施策としてもう少し教育の現場に踏み込んだ内容を委員会と教育委員会の方と調整いただいた上で、何か一つ入れていってもよいのではないかとご提案である。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・播磨町の現状の環境学習は、バスツアーや夏休みおもしろ教室など、興味のある人が応募していただくというスタイルである。最近では町の職員が学校で行う環境学習を実施していないため、教育委員会と調整しつつ、具体的にどういった教育にするのか、町の職員が学校を訪問する形になるのか、校外学習という形になるのかといふところを含めて、できることがないかを考えていく必要がある。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・私の勤務先の大学では、大学院の定員充足率を改善するため、まずは大学院自体の認知度を上げるべく、大学院を知ってもらうための授業を 1 単位作った。そこで実際に大学院の授業を見に行ったり、大学院生がいる研究室に行ったり、或いは大学院修了者が務めている現場を見に行ったり、そういった形で学生に周知する機会を作った。参加すれば卒業単位というインセンティブにもなり、知ってもらえる機会にもなるという踏み込んだ形の教育として進めていた。同じようなことはできないかもしれないが、学校教育は半ば強制的に全員が受ける形になるため、それをどこまで引き上げるのかは各ご家庭による。そのため、まずは知っていただく機会を提供・発信する。EV であれば実際に乗ってみる体験も楽しい。デジタルの世の中だからこそ、実際に体験できることを施策に盛り込んでいく必要がある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・明石市や神戸市などの小学校に出前授業に行くことがあるが、その学校の先生たちは「環境教育と言われても何をやったらよいかわからない」という方が結構いるため「こういったことができる」といったことを、たとえば地球温暖化に関する勉強をしている大学生の方が話しに行くようなやり方もできるのではないかと。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・高校には探究の授業というものがあり、その中で小学生に温暖化に関する知識を教育するための教材や授業を作ることを目標にしている高校生もいる。そのフィール

第3回播磨町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）検討委員会

	<p>ドとして活用してもらうことで、その授業を受ける小中学生にもメリットがある。何かを教えるということは内容を理解していなければできないため、自分たちが学ぶ機会にもなる。そういったことも含めてご検討いただきたい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料4-43ページ) J-クレジット制度について。北海道では環境保全で川の掃除をし、集めたごみをリサイクルして環境価値の創出を行っている。今回、学校単位や自治会単位で環境を学びながら価値の創造ができる J-クレジットというものを勉強させていただいた。学校や役場を挙げて環境価値の創出を行い、いろいろな団体に結び付ければ言葉は悪いがお金儲けにもつながるのではないかと。環境に関する授業は小中学校、高校だけでなく幼稚園や保育園からでもできるのではないかと。播磨町としての見通しはいかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・J-クレジット制度は、環境価値をお金に変えるために、お金がかかるという現実がある。それを代行してくれる事業者もあるが、その事業者の取り分などもあるため、今の播磨町の規模では大きな成果を出すことは難しい。しかし「実際に取り組んだ活動が環境にとってこれだけの価値になった」と示すことができるため、意識改革という面で価値が目に見える J-クレジットは、制度としては非常によいものである。実際にそれをどのような形で、どの対象範囲まで含めていくかは、まだ J-クレジット制度の研究を行う必要がある段階です。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に「収益があった場合には地域へ還元します」と書いてあるため、いろいろな取組を調べたが、日本全国あちこちで実施されているため、研究の余地はあるかと。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料3-6ページ) 最終目標として 2050 年カーボンニュートラルの達成を目指すがあるが、グラフでは 2050 年は 84%削減になっている。カーボンニュートラルを目指すのであれば、100%削減し、実質ゼロの姿を見せなければ、町民が「84%の削減でよい」と思ってしまうのではないかと。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・確かにここは曖昧かなと思う。グラフの「84%削減」の上に「カーボンニュートラルを目指す」と記載いただければ、まだ誤解はないのではないかと。思いとしてはカーボンニュートラルを目指してはいるが、見込みとしては難しい部分も出てくることもあるため、現状の見込みでは 84%ではあるが100%を目指すという意味も込めて「カーボンニュートラル達成を目指す」という文言は入れておいた方がよい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・どちらかというグラフの方を「技術革新なども考慮した上でゼロにする」という形にした方がよい。意気込みも含めて。
委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・意気込みも確かに必要だと思う一方、少し難しいという面も確かであるため、そこは調整いただきたい。
3 その他 事務局	<p>事務局による説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本日いただいたご意見を踏まえ、修正をかけて計画素案として形を整える。 ・令和8年1月13日～2月12日の1ヶ月間、パブリックコメントを実施。 ・パブリックコメントのご意見を反映させたものを計画原案とする。意見反映の確認作業については、当委員会を代表して奥委員長に一任させていただく。

第3回播磨町地球温暖化対策実行計画（区域施策編）検討委員会

4 閉会	<ul style="list-style-type: none">・最後に完成した計画については、各委員へ別途ご案内させていただく。・本日の議事録を町のホームページで公開予定。後日、確認作業をお願いさせていただく。
以上	